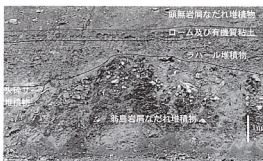




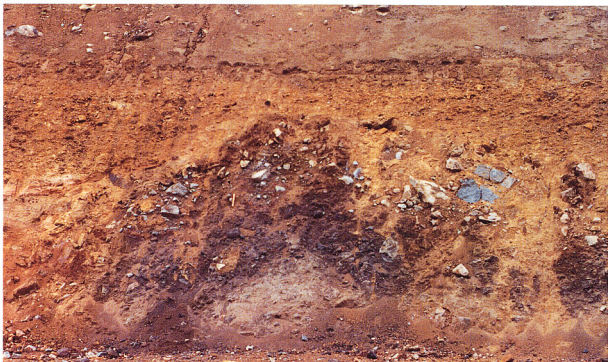
## 磐梯山南西麓の岩屑堆積物断面露頭

磐梯山南西麓のリゾート開発に伴う取り付け道路切り通しの露頭に、堆積構造などの特徴が異なる多種類の岩屑堆積物が見出された。それらには磐梯火山最大の崩壊による翁島岩屑なだれと、その後の頭無岩屑なだれに相当する堆積物が含まれる。さらに、火砕サージ及びラハールなどの堆積物が挟まれていることが明らかになった。それらから、磐梯火山の崩壊・活動史について多くの事柄を読み取ることができる(本文38-48頁参照) <地質調査所 地質部 三村弘二・地質調査所 環境地質部 遠藤秀典・地質調査所 地質情報センター 山本洋一>



1.(上)露頭の切り通しから磐梯山を望む、手前の工事中道路の両側が本露頭。この先が小屋川の谷で、露頭は磐梯山頂から南西約4.7kmに位置する。

2.翁島岩屑なだれ相当堆積物(ユニット1、本文参照)の露頭写真(下)とスケッチ図(左)。本露頭最下部、中央径5mを越える礫石安山岩塊(青灰部分)とそのまわりの基質(暗色部)から構成される。この溶岩塊は破碎し、ジグソーパズル状の割れ目がほぐれて、火砕岩様のみかけを呈する。基質は、岩塊の碎片が細かく入り交じり、露頭の壁面でボロボロと容易に崩れる。堆積物全体は風化が著しく、温泉変質した部分が多い。

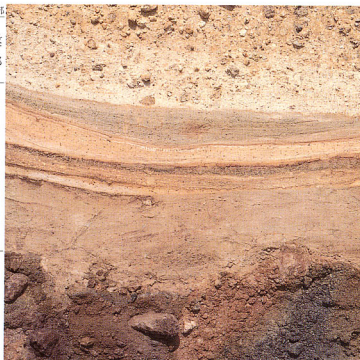


ラハール堆積物

主部  
最下部

火砕サージ堆積物

岩屑なだれ堆積物



3. 火砕サージ堆積物(ユニット2, 本文参照) 剥ぎ取り標本no.1, 火砕サージ堆積物は、暗褐色の岩屑なだれ堆積物の凹部を埋め立てるように堆積し、上位のラハール堆積物におおわれている。砂ないしシルト大の薄層からなり、円磨し、粘土化した軽石片のほか、径1cm未満の温泉変質を受けた石質岩片が目立ち、炭化した植物細片を含む。色調の変化が明瞭な5つのサブユニットからなるこの細互層には、斜交葉理や、波長数10cmの砂丘構造、あるいはアンチデューンなどのサンドウェーブが発達する。標本の高さ90cm。



4. 火砕サージ堆積物の露頭写真, 剥ぎ取り標本no.1付近を示す。色調や粒度の変化が明瞭である。粒子の配列状態から写真右から左に向かって堆積したことがわかる。露頭に対して剥ぎ取り標本では左右が逆になっている。スケール20cm。



5. (下) 露頭の全容, 工事中道路北西側の露頭を3方向から撮影した写真を合成して作成。次頁下に続く, 本文第2図参照。

6. 火砕サージ堆植物剥ぎ取り標本no.2, 上位のラハール堆植物(ユニット3, 本文参照)の最下部は厚さ10cm程の細粒層で, 大部分が淘汰が悪い径5mm未満の岩片と少量の軽石からなり, 細かいラミナが部分的に認められる。岩片のほとんどと軽石は著しい温泉変質を受け, 黄白色に粘土化している。この細粒層と, 上位のラハール堆植物主部との境界は, 主部により削られている部分以外は, 本写真のように漸移する。標本の高さ約90cm。



ラハール堆植物  
主部  
最下部

火砕サージ堆植物

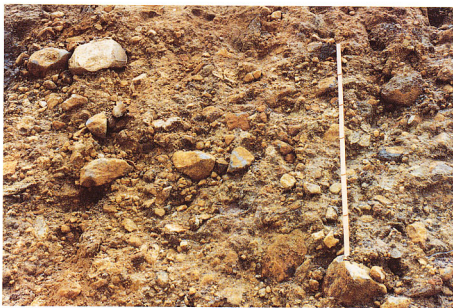
層なだれ堆植物

7. (下)剥ぎ取り作業の状況。グラスウール吹き付けによる裏打ちが終わった段階である。白い部分の手前から, それぞれno.1, no.2, no.3の剥ぎ取り標本の位置である。本露頭はその後保護工事が行われ, 露頭観察ができなくなっている。



前頁5.の露頭写真の続き。露頭全体の規模は高さ10m余り, 延長50m余り。





8.ラハール堆積物(ユニット3, 本文参照), この堆積物の主部は, 写真の様に若干円磨を受けて角の取れた, 径30cm未満の安山岩礫に富む, 礫はすべて, 黄褐色に温泉変質を受けた基質によってコーティングされているのが特徴である。スケール1m, 工事中道路南東側露頭。

9.頭無岩層なだれ相当堆積物(ユニット5, 本文参照), ほとんど風化を受けていない新鮮な崩壊物からなる, 輝石安山岩の破碎した溶岩と脆弱な火砕岩の岩塊は, ジグソー・パズル状の割れ目が更にほぐれ, バラバラになっている。中央左上縦の工事用木枠長さ約4m, 工事中道路南東側露頭。



10.ラハール堆積物(ユニット7, 本文参照)中の気孔。堆積物は, 淘汰の悪い多種の安山岩礫と, 完全に混合した, それらの細片を基質とする摩耗を受け角のとれた安山岩礫は, 細粒の基質によってコーティングされていることが多い。基質には写真のような多数の気孔(vesicles)と, それらが連結した'パイプ構造'が発達する。